構造計算適合性判定 指摘事例集　－よくある指摘事例とその解説－　　2021年版

「正誤表」（2023年版）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ | 行 | （誤） | （正） |
| 3.1.4-2 | 27 | 各荷重時の曲げモーメント分布を図―２に示す． | 各荷重時の第１層の曲げモーメント分布を図―３に示す． |
| 3.1.4-2 | 36 | つまり，柱端モーメントに関しては，鉛直荷重時と地震荷重時で十数％違うということである．また，軸方向変形を無視しているため，外柱に対する比$ m\_{VH}$は均等スパンであれば多スパンになっても同じである．多スパンの高層骨組において，柱の曲げモーメントに対する比$ m\_{VH}$が十数％異なった場合、柱軸方向変形の影響を考慮しても長期荷重時の柱曲げモーメントの相違はさらに小さくなり，結果として柱軸方向変形の影響による短期荷重時の柱の曲げモーメントの相違は数%にすぎないことになる．また，同様に梁の曲げモーメントの相違は数%にすぎないことになる． | つまり，柱端モーメントに関しては，鉛直荷重時は地震荷重時の十数％である．ここでは軸方向変形を無視しているため，外柱の曲げモーメント比$ m\_{VH}$は均等スパンであれば多スパンになっても同じである．多スパンの高層骨組において，柱軸方向変形考慮の有無により鉛直荷重時の柱曲げモーメントが20～30％相違したとしても，鉛直荷重時と地震荷重時の柱曲げモーメント比$ m\_{VH}$が十数%であれば，短期荷重時の柱の曲げモーメントの相違は数%にすぎないことになる．また，同様に梁の曲げモーメントの相違も数%にすぎないことになる． |
| 3.1.6-3 | 9 | *αy*=(0.043+1.64*npt*+0.43*a/D*+0.33*η*0)(*d/D*)2 | *αy*=(0.043+1.64*npt*+0.043*a/D*+0.33*η*0)(*d/D*)2 |
| 3.2.1-5 | 四角内11 | *P*2×(4×1+3×0.75+2×0.5+1×0.25)*δ*=9.75*P*2*δ* | *P*2×(4×1+3×0.75+2×0.5+1×0.25)*δ*=7.5*P*2*δ* |
| 3.2.6-1 | 図-1 |  | *T**M**C* |
| 3.2.6-3 | 図-4 |  | DCA図検定断面A |
| 3.2.6-3 | 17 | $$Q\_{su}=\left\{\frac{0.053p\_{t}^{0.23}\left(F\_{c}+18\right)}{M/\left(Qd\right)+0.12}+0.85\sqrt{p\_{w}σ\_{wy}}\right\}$$ | $$Q\_{su}=\left\{\frac{0.053p\_{t}^{0.23}\left(F\_{c}+18\right)}{M/\left(Qd\right)+0.12}+0.85\sqrt{p\_{w}σ\_{wy}}\right\}bj$$ |
| 3.2.6-4 | 18 | 付着信頼強度式は「図-3　付着割裂パタ-ン」の | 付着信頼強度式は「図-3　付着割裂パターン」の |
| 3.2.6-5 | 4 | *Kst*=140*Aw*/(*dbs*) | *Kst*=140*Aw*/(*dbs*) |
| 3.2.6-7 | 図-7（A） |  | *d* |
| 3.2.6-7 | 図-7（B） |  | ***y*** |
| 4.1.1-3 | 6 | Σ*cMpn*≧min{1.5*bMp*，1.3*bMpn*} | Σ*cMpn*≧min{1.5*bMp*，1.3*pMpn*} |
| 4.2.3-2 | 14 | (4) 壁厚（*t*）と梁幅（*B*）が曲げせん断剛性増大率に及ぼす影響：** 3 | (4) 壁厚（*t*）と梁幅（*b*）が曲げせん断剛性増大率に及ぼす影響：** 3 |
| 5.3-1 | 11 | Terzahi | Terzaghi |